



協働まちづくりの

すゝめ!

● 市民提案型協働支援事業補助金

29年度市民提案型協働支援事業の第1回審査分には、10団体から事業提案がありました。「協働の提案テーブル」で話し合いを行い、その後、市民公益活動団体支援事業審査会でのヒアリングによる事業審査の結果、下表の8事業を認定しました。

● 第2回審査分提案事業の募集

- ◆ 提案の受け付け 5月10日(木)まで
- ◆ 協働の提案テーブル 5月下旬
- ◆ 審査会開催 6月上旬
- ◆ 補助金交付決定・事業実施 7月上旬
- ◆ 申込先 本庁地域づくり推進課市民活動係、市民活動支援センター(メイプル地下2F②4200)

- ### ■ 補助金コース・補助率
- チャレンジコース**
 充足5年以内の団体(実行委員会除く)が新規で行う公益事業が対象(1団体2回まで)・10/10以内(上限10万円)
 - コラボレーションコース**
 複数団体(活動実績1年以上)が協働して行う公益事業が対象(1事業2回まで)・4/5以内(上限20万円)
 - ステップアップコース**
 NPO、事業者、実行委員会などが行う公益事業が対象(1団体原則3回まで)・3/4以内(上限30万円)

■ 29年度市民提案型協働支援事業補助金(第1回審査分)認定事業一覧

団体名	事業名	総事業費(円)	補助金額(円)	担当課
【チャレンジコース】				
水文化遺産旧穴山堰を語り継ぐ会	水文化遺産旧穴山堰継承事業	116,000	100,000	教育委員会事務局歴史遺産課
地いき 楽しくアイビーナ	Natural mind build カラダ×ココロづくり交流会	155,000	100,000	本庁子ども・家庭課
【ステップアップコース】				
田んぼアート実行委員会	田んぼアート事業	971,440	300,000	本庁商業観光課
奥州カヌー愛好会	水源地域カヌー振興事業	430,000	300,000	本庁政策企画課
後藤新平顕彰会	後藤新平生誕160年記念事業「次世代につなぐ先人の精神」	461,000	300,000	教育委員会事務局歴史遺産課
高野長英顕彰会	高野長英顕彰「長英の夢と人生」発刊	430,000	300,000	教育委員会事務局歴史遺産課
特定非営利活動法人シチズンスポーツ奥州	JFAグリーンプロジェクト in 奥州	501,600	300,000	本庁生涯学習スポーツ課
岩谷堂商店街連合会	いすー1GP 奥州えさし大会	585,000	300,000	本庁商業観光課

地域リーダーを育成する 協働のまちづくりアカデミー

● 28年度アカデミーが終了

地域の自治組織やNPOなどの市民団体を発展させ「協働のまちづくり」の担い手となる地域リーダーを育成する市協働のまちづくりアカデミー。平成28年度のアカデミーは、市内若者団体の事例発表など計12回の各種講座と3班に分かれてのアクションプログラムの実践を行いました。

3月21日に行われた修了式では、修了生19人に小沢昌記市長から修了証を手渡し、そのうち講座などに7割以上出席した12人を「精勤賞」として表彰しました。修了生は地域リーダーとしての自覚と決意に目を輝かせていました。



● 29年度受講生を募集

- ◆ 開講期間 29年5月～30年2月
- ◆ 実施場所 水沢地区センターほか
- ◆ 対象者 市内在住の65歳未満(振興会推薦者は年齢不問)
- ◆ 定員 30人(定員になり次第受け付け終了)
- ◆ 受講料 無料(交流会などで自己負担あり)
- ◆ 申込方法 受講申込書(市ホームページ、本庁地域づくり推進課、各総合支所総務企画課で配布)に必要事項を記入の上、下記申込先まで提出
- ◆ 募集締め切り 4月28日(金)

29年度カリキュラム(予定)	内容
5月11日	開講式
5～7月	各種講座(6回程度) 地域づくりの手順と手法、ワークショップの基礎・実践、地域資源の活用法、奥州市のまちづくり施策 など
6・8月	事例紹介(奥州市社会福祉協議会おうしゅうソーシャルキャンプとの共催)
8～12月	地域課題解決のための実践活動(アクションプログラム) 地域課題解決に向けたアイデアを受講生が考え、地域自治組織やNPOなどと協働で実践
1月下旬	活動発表
2月下旬	修了式

※講座は平日夜間(午後7時～9時)開催予定

◆ 問い合わせ・申込先 本庁地域づくり推進課
 (江刺総合支所・内線324、☎7466、✉chiikidukuri@city.oshu.iwate.jp、☎023-1192※住所記載不要)



70年の歴史に幕おろす いざ! 胆沢中へ!

3月19日から20日にかけて胆沢区内3中学校で行われました。当日集まった生徒や教職員、歴代卒業生らは70年分の感謝の気持ちを込めながら、思い出のいっぴい詰まった母校に別れを告げ、校歌を熱く斉唱。新たな旅立ちに想いを寄せていました。

3月19日、胆沢区内3中学校の先陣を切って若柳中学校の閉校式が開催されました。来賓や地域住民ら200人が出席する中、生徒全員が一斉に出席者がいる後方に向きを変え「お別れの言葉」を伝えました。高橋美翔さん(3年)は「70年若柳の子どもたちを見守り、育んでくれた若柳中への感謝を伝えるため、私たちが口火を切り、生徒全員がいっぴいの合唱とエールを送りました。」

同日開催された南都田中学校閉校式には320人が出席。閉校記念碑の除幕式も行われました。菅野拓人くん(2年)は「思い出の校舎とは今日でお別れです。この記念碑と

もに南都田中で学んだことを誇りに思い、感謝の気持ちを忘れず、これからも歩んでいきたい」と閉じゆく校舎への思いを語りました。

3月20日には小山中学校が閉校式を開催。350人の出席者が見守る中、関向正俊校長は「多くの卒業生、地域的情熱で築き上げてきた小山中の伝統は『フロンティア』の言葉とともに新生胆沢中へ受け継がれ、前を指して最善を尽くすという気風を醸成するものと確信している」と述べました。

どの中学校でも在校生そして地域の人々は、古き校舎への惜別の思いとともに、新たな船出への期待感に胸を膨らませていました。

菊池俊二若柳中学校長より校旗が返納



南都田中学校では閉校記念碑が除幕



各校とも歴代学校長などに感謝状を贈呈

